

日本原子力技術協会の記者会見・3月18日（金）

2011-03-18 23:47:50 | 研究・科学技術・人生とは今日で大地震からちょうど一週間。今日は午後3時半から日本外国特派員協会にて、日本原子力協会（JANTI）の福島原発事故に関する記者会見が行われたので、午後に有給休暇を取って、参加してきました。今日の午後は東大の地震研でも東日本大震災に関するワークショップがあったので、どちらに参加するか、ちょっと迷ったのですが、国内外のブログの読者や知り合いの多くから「記者会見へ行って、また福島原発の情報をアップして下さい。」というお便りもあり、結局日本原子力協会（JANTI）の記者会見に行くことにしました（冒頭の写真）。

この会見、最初の40分が日本原子力協会（JANTI）からの原発事故に関する説明だったのですが、目新しい情報も殆どなく、しかも今回の事故（地震・津波時の事故発生から現在まで）を、スリーマイル島の原発事故と非常に似ているという前提のもとで、説明がなされ、将来もスリーマイル島のように数週間で収束するだろう、と楽観的な話を、元理事長の石川氏が明るい笑顔でされたのですが、話の流れがしっかりしていなかったり、その根拠となるデータをきちんと示してくれず（あるいは数値を何度も間違えて読み上げたり、隣の通訳や同技術協会の方からもスピーチや発言のなかの不明な点や度重なるエラーを指摘されたり）、といった具合で、記者会見というよりも、スリーマイル原発と福島原発の事故の経過のまとめを聞いている感じでした。このため、このブログでも紹介した、今週の日曜（3月12日）から火曜（3月14日）まで三夜連続で行われた原子力資料情報室（CNIC）の記者会見と比べると、情報の質、プレゼンの準備、話の流れ・内容の（感情に訴えるのではなく）論理性など、全ての点でサッパリでした。私は、原子力資料情報室（CNIC）の会見の仕方も、良い点と改善すべき点は分析し、このブログでも数回に分けて紹介しましたが、今日の日本原子力協会の会見、スピーチ・プレゼンのつたなさ以前に、その内容の根拠の薄さに、啞然としてしまいました。

プロジェクターも用意してあるのに、配った資料（スリーマイルと福島原発の構造図）を読みながらの説明。パワーポイントなどのスライド・ショーがないんですよ。難しい用語が続き、理系、しかも物理化学や原子炉の基礎知識がないと解らないような部分が多かったです。中には明らかに間違った発言や数値もあり、例えば、「水素爆発は危ないが、水蒸気爆発は比較的マイルドで心配

ない。」と言った間違った（少なくとも誤解を招く）発言がありました。JANTIから参加された他の方々から、「石川元理事は高齢ですので」というフォローが何度もありましたが。しびれを切らせて、途中で帰る記者さんたちも何人も居ました。

その後の質疑応答の時間も、記者の質問に対する答えが日本政府のように楽観的で、発言のちょっとした撤回・訂正や話した数字の訂正も続き、福島原発を全体として安全視している理由もわからず、答えになっていない事もありました。原子力資料情報室（CNIC）の三夜の会見の時には、食いつくように厳しい質問をする記者さんもいらっしやったのですが、今回は記者さんの質問にも熱がそれほど入って居なかったように思えます。

私も、同席した知り合いの記者さんたちも、ガッカリです（会見後の夕食のときに、その話になりました）。

もう一つ、今日ガッカリしたのが、外国人記者の数がぐっと減っている事です。友人で週末などによく一緒に遊んでいたドイツ人の記者さんも大使館からの命令で、昨夜から東京を退避している、と今日になって、日本外国特派員協会で聞かされました。当然、記者会見の会場に居る、外国人記者の数が減ってしまっており、これで十分な質疑応答ができるのか？といった感じです。